

北海道ポーランド文化協会創立 25 周年記念誌

POLE



北海道ポーランド文化協会 創立25周年記念誌 POLE 目次

表題(筆者) (POLE 掲載号:発行年月)	ページ
記念誌刊行にあたって(会長 安藤厚)	iv
1. 協会の歩み	1
祝北海道ポーランド文化協会創立 25 周年！コザチェフスキ駐日ポーランド大使の祝辞／創立 25 周年 祝賀会(小林暁子) (77:2012.12)	2-3
創立から 26 年刻んだ足跡に「ポーランド文化功労章」当協会が受章！(霜田英麿) (81:2014.3)	4-5
初代事務局長吉田宏先生を悼む(小笠原正明) (54:2004.6)	5-6
第三代会長灰谷慶三先生を悼む(安藤厚) (59:2006.9)	6
第二代会長谷本一之先生の一周忌によせて(安藤厚) (67:2010.9)	7
初代副会長遠藤道子先生を偲んで(三浦洋) (73:2012.2)	7-8
北海道ポーランド文化協会～映画、音楽、料理まで多彩な活動続け20年～(三浦洋)	8
2. 音楽	9
〈第 61 回例会〉創立 25 周年記念コンサートを終えて(安藤むつみ)／5月の札幌の市電に乗って ～詩の朗読～(シルヴィア・マリア・オレヤージュ) (75:2012.6)	10-11
〈第 47 回例会〉盛況だった第2回美術館コンサート(54:2004.6)	11
創立 20 周年記念ピアノコンサートは大成功／コンサートを成功裡に終えて(薄井豊美) (63:2008.6) ..	12
「ショパン生誕 200 年記念」コンサートを終えて(ウィリアムス美由紀)／札幌におけるポーランドの文化を 感じた日(ヴァルデマール・ヤロスラフ・ダブロフスキ) (67:2010.9)	12-14
「第 16 回ショパン国際ピアノコンクール」第3次予選を鑑賞して(水田香) (68:2011.2)	14-16
〈第 63 回例会〉21 世紀のショパン像～新書簡集出版を祝って～(安田文子) (78:2013.5)	16-17
〈第 64 回例会〉ジャズ de ポランスキー(佐光伸一) (78:2013.5)	18
北大クラーク会館のパイプオルガンについて(金多景 キム・ダギョン) (79:2013.8)／〈第 67 回例会〉 マリア・マグダレナ・カチオルオルガンリサイタル with 松井亜樹／カチオルさんの音楽(川染雅嗣)／ ポーランドにおけるオルガン音楽(マリア・マグダレナ・カチオル) (80:2013.9)	19-22
ヴィルト・ルトスワフスキ生誕 100 周年記念講演&演奏会「ポーランド楽派を聴く」～ショパンとルトスワ フスキ～(佐光伸一) (81:2014.3)	22-23
北海道ポーランド文化協会の演奏会等一覧	24-26
〈ポーランド&ニッポン歳時記〉(1)(津田モニカ・霜田千代麿)	26
3. 映画	27
ポーランド現代映画セレクション 2004-2009(佐光伸一)／ポーランドの心が広がる映画会を実感(栗原 朋友子)／深い感動を呼ぶ珠玉の名作ふたたび(柏木由美子)／親愛なるバルデック・チェホフスキへ (霜田千代麿)／観客のみなさんの声(アンケートから) (70:2011.5)	28-32
札幌における「ポーランド映画セレクション」Ⅰ～Ⅲ一覧	33
チェホフスキ監督と過ごした3日間(氏間多伊子) (67:2010.9)	34-35
ポーランド映画セレクションⅢ(78:2013.5)／ドルィガス監督との出会い(久山宏一) (79:2013.8) ..	35-37
〈第 51 回例会〉映画上映会(シアターキノ)「敬愛なるベートーヴェン」～「第九」とアンナ、そしてポー ランド派ホラント～(三浦洋) (60:2007.1/61:2007.6)	38-40
「ショアー」のランズマンから見たワイダの「コルチャック先生」とホラントの「僕を愛したふたつの国」(小原 雅俊) (65:2009.8)	40-42
2012 コルチャック年特別記念企画—コルチャック先生の遺してくれたもの(塚本智宏) (78:2013.5)	42-43
〈ポーランドの都市の伝説～トルン 1)トルンの町の名の起こり(栗原成郎) (82:2014.5)	44

4. 交流の歴史から	45
ポーランドのアイヌ研究者ピウスツキの仕事—白老における記念碑除幕に寄せて(井上絃一) (80:2013.9)	46-47
.....	46-47
ブロニスワフ・ピウスツキの胸像除幕式と記念セミナー(井上絃一) (81:2014.3)	48-49
日本におけるポーランド政府のピウスツキ顕彰事業に参加して(ヴィトルト・コヴァルスキ) (82:2014.5)	49-52
.....	49-52
日本に近親感を持つポーランド人(松本照男) (82:2014.5)	52-55
はじめての東京例会大成功! 樺太時代に生きたポーランド人(尾形芳秀) (83:2014.9)	56-58
〈ポーランド&ニッポン歳時記〉(2)(3)(津田モニカ・霜田千代麿)	59
〈ポーランドの都市の伝説〜トルン 2〉役師と蛙たち(栗原成郎) (83:2014.9)	60
5. 北海道とポーランド	61
〈第 68 回例会〉第4回「午後のポエジア」に出席して(佐藤宣子) (83:2014.9)	62-63
朗読会「午後のポエジア」一覧	64-65
.....	64-65
〈ポーランド&ニッポン歳時記〉(4)(津田モニカ・霜田千代麿)	65
〈第 50 回例会〉ポーランド料理講習会 (58:2005.9)	66
〈第 52 回例会〉ポーランド料理教室〜デザート篇〜 (61:2007.6)	67
手作りのポーランド料理はいかがですか?! 北大祭に出店します(北大ポーランド人留学生会) (82:2014.5)	68
.....	68
ポーランド留学生と私の 20 年(富山信夫) (71:2011.9)	69
駐日ポーランド共和国大使館&在北海道ポーランド人会主催 PRZYJĘCIE Z OKAZJI PIĘĆSETNEGO POLONIJNEGO OBIADU ŚRODOWEGO ポーランド人「水曜昼食会」500 回記念パーティー(ラファウ・ ジェプカ) (71:2011.9)	70-71
.....	70-71
ポーランドの道産子(エディータ・ジェプカ) (57:2005.4/58:2005.9)	72-73
百聞は一見に如かず〜日本で PTA 会長を体験して〜(ラファウ・ジェプカ) (82:2014.5)	74-75
ロドヴィッチ大使を迎えて「ポーランド in 北海道」開催! (66:2009.12)	75
駐日ポーランド共和国大使館を訪問(佐光伸一) (72:2011.11)	76
コザチェフスキ大使さっぽろ雪まつりへ〜北海道知事らを表敬訪問〜(佐光伸一) / ~国際雪像コンク ールのポーランドチームを激励〜(尾形芳秀) (81:2014.3)	76-77
.....	76-77
「調律師—シヨパンの能」を観て(霜田千代麿) (69:2011.4)	78
6. さまざまなエッセイ	79
ポーランド自転車一人旅〜国境を越えて〜(鳴神雅史) (55:2004.8/58:2005.9)	80-83
私はヨアンナ・クンツェヴィチと申します。(ヨアンナ・クンツェヴィチ) (71:2011.9)	83
もうひとつのポーランド史 ベラルーシの歴史と伝説〜バルバラ・ラジヴィルの亡霊〜(越野剛) (62:2007.9/ 63:2008.6)	84-85
.....	84-85
ポーランド国歌のお話(氏間多伊子) (68:2011.2)	86-87
ワルシャワの地下鉄(岡崎恒夫) (82:2014.5)	88-89
変わりゆくポーランドのタデウシュ・カントル(津田晃岐) (79:2013.8)	89-91
誓います/Przysięgam〜日本とポーランドの結婚式について〜(アグニェシュカ・ポヒワ) (83:2014.9)	92
.....	92
北海道ポーランド文化協会 会誌 POLE 第54〜83号 目次	93-98
.....	93-98
〈ポーランド&ニッポン歳時記〉(5)(津田モニカ・霜田千代麿)	98
北海道ポーランド文化協会 活動年表 2004〜2014年	99-103
読者の皆さま! (ポーランド広報文化センター所長 ミロスワフ・ブワシチャック)	104
あとがき	104-105

記念誌刊行にあたって

北海道ポーランド文化協会 会長 安藤厚

北海道ポーランド文化協会は「北海道とポーランドのあいだの文化交流を促進すること」(会則より)を目的として1987年10月に設立され、以来28年間、ささやかではありますが、多方面にわたりさまざまな文化交流の活動を進めてまいりました。

これまでに〈例会〉は73回、会誌「ポーレ」の発行は85号を数え、そのほかにも主催、共催、後援、協賛などさまざまな形で、コンサート、映画上映会、朗読会、講演会、旅行、ポーランド語講座など多彩な活動を行ってきました。

記念誌は、創立15周年を機に2003年にはじめて刊行され、会の歴史と活動の原点を確認し、次の新しい発展を目指すための礎となりました。今回はそれから10年を経て、創立25周年記念誌をまとめることができました。

二つの冊子をならべてみると、会員数が150人から100人ほどのささやかな存在である本協会の活動が、四半世紀もつづいてきたことは奇跡のように思えます。この間、ポーランドでは自由選挙・民主化、EU加盟など大きな変化があり、日本でもバブル崩壊などさまざま困難を経験しました。文化活動には困難の多い時期に、本会が個々の会員のボランティア精神のみを頼りにこれまで活動をつづけることができたのは、希有な幸運といえましょう。

この間、さまざまな形で会の活動を支えてくださった過去・現在の会員、関係者、私たちの活動に関心をよせてくださったすべてのみなさまに、心から感謝を申し上げます。

会誌「ポーレ」のバックナンバーをみると、この十年間で、とくに最近5年ほどは「ポーランド in 北海道」(2010)をはじめ、「ポーランド映画セレクション」(2011-13)、恒例となったピアノコンサート・レクチャーコンサートや、朗読会「午後のポエジア」(2011-15)など多彩な催しがあり、たいへんな活況を呈しています。

その大きな原動力となったのは、一つには駐日ポーランド共和国大使館との連携です。本会事務局と、ロドヴィッチ前大使、コザチェフスキ現大使および歴代の文化・広報担当官とのあいだに強い信頼関係ができたことが大きな力となりました。

また、北海道在住のポーランド人のみなさんとの交流が、私たちの大きな楽しみとなっています。毎秋、定例総会のあとは懇親会にポーランドのみなさんをお招きして、近年はいつも20人前後の方々に参加され交流を深めています。初夏の恒例となった朗読会「午後のポエジア」も、日本人とポーランド人がとものつくる交流の場として定着してきました。

会誌「ポーレ」には、会の活動の記録のほか、ポーランドの歴史、文学、音楽、映画、演劇などに関する多彩なエッセイや、旅行記なども掲載されていて、読み物として興味深いだけでなく、今後の活動のアイデアを得ることもできます。

本協会の活動は、会員だけのためのものではなく、つねに一般市民のみなさまにも開かれています。本記念誌が多くのみなさまの目に触れ、ポーランド文化に関心をもっていただくきっかけにもなれば幸いです。

2015年7月